

輝く未来をつくる

しあわせな

happy お産 birth

「出産するならここが理想」。2009年の開設以来、数多くの妊産婦から選ばれ、その思いに寄り添ってきた「メディカルバースセンター めばえ」。健康寿命日本一のバトンは、新しい命が誕生するその瞬間から受け継がれていく。



なかやまひろみ 産後のママInterview 中山裕美さん

2人目の出産でこちらのバースセンターを選びました。担当の助産師さんがずっと付いてくれて、出産するまで親身になって話を聞いてくれたので安心して産むことができました。分娩室に入ったのは深夜だったのですが、夫と上の子どもと一緒に立ち会うことができたのがうれしかったですね。ラジカセやアロマなど、いろいろ用意してくれていたのに、活用できなかったことが残念です(苦笑)。3人目を出産する機会があったらまたここをお願いして、自分の好きな音楽と香りをリクエストしたいと思っています。

いわながゆうこ 岩永優子さん／産婦人科医  
これまで全国数カ所の産婦人科を経験してきましたが、当バースセンターの助産師たちは技術、知識、モチベーションともにレベルが高いと感じています。また、医師と助産師間の連携・情報共有システムがしっかりしていることで、妊産婦さんにより深い安心感を提供することができていると思います。これからは県内外から「私はここで産みたい!」と思ってもらえるような施設になれるよう努力していきたいですね。



かねたあやこ 金田礼子さん／助産師  
当バースセンターの助産師は、高度なスキルとプロ意識を持って業務に取り組んでいます。私も毎日、担当する妊産婦さんに「ここでの出産なら何がとっても大丈夫ですよ」と伝え、そのサポートを完璧に行えるよう努めています。出産は人生の中でわずかな時間ですが、人生の中で最も感動的な瞬間でもあります。妊産婦さんに寄り添い、悔いのない出産を行っていただくことが、私たちの揺るぎない使命です。

出産の経験がある方なら、一度はこのような理想を求めたことはないだろうか? 「できる限り自然分娩で出産したい」「自分が一番楽なスタイルを希望したい」「夫や子どもにも参加してほしい」「きめ細やかに要望を聞いてもらいたい」「もしもの時の医療体制も万全でいてほしい」...。全国トップレベルの医療体制を誇る浜松市では、妊産婦のこのような理想を叶える環境づくりにも抜かりなく取り組んでいる。そのひとつとしてあげられるのが、浜松医療センター内にある『メディカルバースセンター めばえ』だ。ここでは高度な技術を持つ助産師が中心となつて「理想的な出産」を先導している。そのアプローチはとことん女性目線に立ち、ひとり一人の希望を細部にまで汲み取っていくスタイルだ。まず行われるのは妊婦へのヒアリング。分娩時の音楽、アロマの香り、姿勢、家族の付き添いの有無など、その人独自のバースプランを構築していく。

そして、自然分娩に安心して臨むことができるよう、プランに添った献身的なケアを行っているのだ。産後に母乳育児や退院指導などのアフターケアが受けられるのも、助産師主導ならではの特長といえるだろう。さらにこのバースセンターの強みは、分娩時に不測の事態が起こっても万全な体制が整っていることだ。緊急帝王切開や緊急の輸血、NICU(新生児集中治療室)搬送などのケースが起これば、すぐに隣接する周産期センターが対応。助産師と医師が連携して、新しい命と妊婦の容態を守っていくのだ。完全オープンシステム※とバースセンター機能を兼ね備えた、理想的な出産環境と言える『メディカルバースセンター めばえ』。このような出産・育児に恵まれた施設が整っていることも浜松市の医療体制の誇りであり、次世代の健康寿命を支える屋台骨のひとつと言えるだろう。

※妊婦健診は診療所で行い、出産は診療所の医師立ち会いのもと病院で行うシステム



広々とした分娩室。お産の直前まで家族と一緒に過ごすことができる。希望があれば立ち会い出産も可能。



浜松医療センター  
メディカルバースセンター めばえ  
http://www.hmedc.or.jp/



トップクラスの医療体制

医療体制の充実。これが健康寿命を延ばしていくための不可欠な要素であることは想像に容易い。浜松市が全国に先駆けて構築し地域医療の理想的モデルとして広がった救急医療体制「浜松方式」、日本で初めて導入されたがん健診システム「遠隔デジタル検診システム」、都市部と中山間地を結ぶドクターヘリの運航...。浜松市には24時間・365日、広大な市域を迅速にカバーできる安心の医療体制が整っているのである。

# 24時間 365日の 安心

いつでも救急医療が受けられる「浜松方式」

救急医療は、浜松市と浜松市医師会が1974年から構築してきた。開業医と総合病院が輪番制で夜間救急に対応し「いつでも救急医療が受けられる体制」を整えることに成功している。これがいわゆる「浜松方式」と呼ばれる救急医療体制。1次救急、2次救急、3次救急において、軽症者と入院を必要とする重症者の受け入れを分担し、特定の病院に患者が集中することなく、迅速に的確な処置を行っていただけるのだ。目指すのは「たらいまわしゼロ」の救急医療。専門医の不在などで救急患者を断る率も、全国の主要都市と比べて断然低いといわれている。さらに眼科、耳鼻科、産婦人科は当番制で医師が自宅待機することで、15次救急に対応できる体制も構築されている。

高精度かつスピーディーにがんを早期発見

3人に1人が死亡していると言われるほど、日本は世界有数の「がん大

時間を短縮することで救命率が向上

国。浜松市医師会では、そんな恐ろしい病の早期発見を目指し、日本で初めてがん健診に「遠隔デジタル検診システム」を導入している。これは、開業医などで受けたがん健診の画像をインターネットで医師会に転送し、2人の専門医が再度読影して、その結果を返送するというもの。より精度の高い健診結果をスピーディーに行えることで、確実に安心できるがんの早期発見を叶えることができているのだ。



現在、静岡県内でドクターヘリが配備されている病院は2カ所。聖隷三方原は県西部地区をカバーするほか、県境をまたいで出動することもある。ドクターヘリに搭乗するのは、聖隷三方原病院の高度救命救急センターに所属する医師と看護師。「空飛ぶドクターとナース」だ。

